



商工会は経営支援を通じて  
事業者の未来に貢献する

全国統一スローガン

「商工会は 行きます 聞きます 提案します」

CONTENTS

- 2 青年部・女性部主張発表中部ブロック大会
- 3 「進取の気性」を経営に活かす
- 4 未来を応援 / 商工会ビジネスプラスカード

第720号

令和5年10月1日発行  
(毎月1日発行 発行部数20,500部)

## 元氣企業紹介

ご縁を大切に  
みなさんの幸せを願って

### カフェゆらら

自身の想いをカタチにしたいと思い、2019年8月に大野町でカフェゆららを開業しました。

当店は大野町の北の端にあり、何かのついでに立ち寄ることのできる場所ではありません。そのため、お客様に「わざわざ足を運びたい」と思ってもらえるような、非日常的で贅沢な時間を過ごすことのできるカフェを目指しています。

そのために大切にしているのは、「料理」、「空間」、「おもてなし」です。



緑いっぱい  
店のエントランス▶

店内の大きな窓から  
緑が望める▼



ひとつひとつ  
丁寧に炊く▶



人気の  
▼土鍋ご飯のランチ



### 「料理」

土鍋でひとつひとつ丁寧に炊き上げるご飯や、地元で採れた旬の野菜、手間をかけた料理など、創意工夫を凝らし、盛り付けにもこだわっています。

### 「空間」

黒を基調とした清潔で落ち着いた雰囲気の内にはオープンキッチンがあり、料理の様子が見られます。また、大きな窓から緑豊かな自然が見え、心地よい癒しの空間づくりがこだわっています。

### 「おもてなし」

温かな接客で気持ちよく過ごしていただけるよう、心がけています。声をかけていただき、私とお喋りをしていかれるお客様も多くおり、嬉しい限りです。

### 商工会との出会い

開業して1年が経過した頃、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、休業を余儀なくされました。そんな中でも様々なご縁をいただき、周りの皆様

に助けていただきました。

その中には商工会との出会いもありました。専門家の先生と経営計画を立て、持続化補助金を利用させていただき、ホームページ制作や、メニュー開発のための器具の導入を行いました。

その効果もあってか、現在では、名古屋、岐阜等様々な場所から、幅広い年齢層の方に来店いただき、土日には行列ができる程になりました。今ではInstagramのフォロワーも一万三千人となりました。

今年の4月には、新宿高島屋から声がかかり、催事でパフェの出店をしました。多くのお客様にお越しいただくことができました。また、従業員と共に東京のお店の接客や売り場づくり、提供の仕方なども学ぶことができました。大変意味のある出店となりました。

### 今後について

いろいろなご縁で、様々な経験をさせていただいています。このご縁を大切に、お客様も、従業員も、地域の方も幸せになれるような店を目指してまいります。

(所属 大野町商工会)

### カフェゆらら

上野佳子

〒501-1401 岐阜県大野町稲富401-1

0585-3215252

9時〜17時

火曜日

<https://yurara.com/>



CAFE\_YURARA



発行所・発行人  
岐阜県商工会連合会  
岐阜市藪田南5丁目14の53 OKBふれあい会館9F

### 商工ニュース 読者アンケート

ご協力ください。ご意見ご要望もこちらまで。



## 令和五年度中部ブロック商工会青年部 連絡協議会交流研修会 主張発表 中部ブロック大会 (開催地 岐阜市)

商工連中部ブロック協議会と中部ブロック商工会青年部連絡協議会は、八月二十四日、グランヴェール岐山(岐阜市)で「交流研修会」及び「主張発表中部ブロック大会」を開催しました。

中部ブロック商工会青年部連絡協議会 和田美樹会長(富山県)の挨拶の後、中部ブロックの五県の青年部代表が、日ごろの青年部活動から得た経験や成果を発表しました。また、ウエルズ社会保険労務士事務所代表 五十川 将史氏による特別講演会を実施しました。

主張発表大会では、岐阜県代表として出場した高山西商工会青年部の森下裕基さんが「私の思う商工会青年部の存在理由」をテーマに発表されました。地域の担い手である若者が減少し

ている町を盛り上げるためのイベントを開催。そのイベントを通じて部員や地域との繋がりを実感し、自身の資質向上に役立つ経験が出来たと「ラップ」を交えた新しい発表スタイルで熱弁をふるわれ、優秀賞を受賞されました。

最優秀賞には愛知県代表の滝垂矢子さんが受賞されました。「女社長がゆく」多様な価値観が求められる時代に」をテーマに、男性中心の青年部を女性の立場から変革し、活動を活性化。取り組みを通じて多様性の重要性を主張されました。

なお、滝さんは、中部ブロック代表として十一月十五日(水)〜十六日(木)、Gメッセ群馬(群馬県)で開催される「主張発表全国大会」に出場されます。



## 令和五年度商工会女性部 主張発表 中部ブロック大会 (開催地 石川県金沢市)

八月二十二日に「令和五年度 商工会女性部主張発表 中部ブロック大会」が石川県金沢市において開催されました。

岐阜県代表・曾我百合子さん(中津川北商工会)が、

二十三日は、視察研修として、「金沢おぐら座」を訪問し、経営者 鷹箸直樹氏(青年部主張発表全国大会で最優秀賞を受賞された経験あり)による講演、舞踊ショーの観劇をしました。

日ごろの女性部活動から得た経験成果を発表し、熱弁をふるわれ優良賞を受賞されました。なお、最優秀賞には富山県代表の河合朗子さんが受賞され、十月十八〜十九日開催の全国大会(静岡県)へ中部ブロック代表として出場されます。

その後に開催された記念講演会では、株式会社ルバンシユ代表取締役 千田和弘氏より、「日本でいちばん大切にしたい会社 受賞企業の働き方改革」をテーマにご講演いただきました。





## 「進取の気性」を 経営に活かす

水野先生には、全10回シリーズで会員事業者様のための経営に役立つ情報をトピックスとして、連載していただきます。

### 第4回

## 「事業再構築の 事例から学ぶ②」

オフィス・インサイドアウト  
中小企業診断士 水野輝彦



前回は、アフターコロナのライフスタイルに適応するためにチャレンジしている2件の飲食店事例を紹介しました。今回は、他業種の取り組みについて紹介します。全て事業再構築補助金を活用した事例を取り上げていきます。新たなチャレンジにはリスクがつきものですが、補助金を活用することでそのリスクを引き下げることができます。

ちなみに、事業再構築補助金の目的は、「新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、当面の需要や売上の回復が期待し難い中、ウィズコロナ・ポストコロナの時代の経済社会の変化に対応するために新市場進出、事業・業種転換、事業再編、国内回帰又はこれらの取り組みを通じた規模の拡大等、思い切った事業再構築に意欲を有する中小企業等の挑戦を支援することで、日本経済の構造転換を促すことを目的とします。」(第11回公募要領)とあります。補助金を申請する際に最も重要なのは、自社の取り組みが補助金の目的と合致するか、もしくは、目的に合ったストーリーを描けるかです。事業再構築補助金の目的に沿った取り組みを実施した(している)事例を3件紹介します。

トレーニングジム店Aは、立地の良い自社ビルでマンツーマン形式のジムの経営をしていました。売上高は増加傾向で推移していたもののコロナにより対面でのサービス提供が制限され、退会も相次いだことから抜本的な事業再構築が必要な状況にあ

りました。そこで、立地が良く周辺にはマンションや住宅地も多いことからフランチャイズの不動産店へ業種転換することを決意しました。ただし、不動産業の開業のためには、一定数以上の専任の宅地建物取引士の設置が義務付けられています。そこで、有資格者の採用活動を行いながら、代表者自ら専門学校に通い宅建士の資格取得に向けて勉強しています。フランチャイズに加盟することでマーケティング等の支援が受けられるなど開業への準備は順調に進んでいます。代表者自ら資格取得に向けた努力を重ねており新事業への意気込みや強い決意を感じる事例です。



2つ目に紹介するのは、クリーニングチェーンBです。Bは自社クリーニング工場を有しておりクリーニング取次店やコインランドリー店などを複数経営しています。しかし、コロナ禍でのテレワークの浸透や大人数での結婚式や葬式、イベントの減少などライフスタイルの変化により売上高が減少し、今後短期的には回復が見込めませんでした。そこで、顧客管理のノウハウや各店舗が住宅街の近くにあるなど立地の強みを活かして不採算店舗をベーカリー(パンや洋菓子の製造販売)店舗に転換することを決断しました。目論見通り、店舗で製造販

売するベーカリーの売れ行きは良く、同形態の店舗を今後順次拡大していく計画で取り組んでいます。



3つ目に、新聞販売店Cの事例を紹介します。ご存じのように新聞購読者数は年々減少しており、コロナでその勢いが加速しています。20年後には新聞購読者数はゼロになるとの予想がされているほどです。そこで、Cは、きめ細かな配達網や顧客の玄関先まで訪問できる強みを活かして、商品の販売代行サービスやお弁当等の配達事業を展開しはじめました。長年地域で新聞配達業を実施してきた信用があるため客先まで直接訪問できる商品販売網は商品メーカーやテイクアウト事業者にとっては喉から手が出るほど欲しい販売チャンネルです。そのため、双方がウィンウィンになれるビジネスモデルが実現したと言えます。



今後も新たな感染症が流行することや経済社会環境がより大きく変化する可能性もあります。先が読めない時代、今回取り上げた事例のように経営者自らが主体的に考え行動していくことが重要です。

**未来を応援**カウンデー  
**Kaung day****カフェという場の持つ力**

～人と企業と情報のハブ機能を担う～

**■ 事業所概要**

令和5年3月1日、飛騨街道はぎわら宿の趣の残る下呂市萩原町の中心に、カフェ「Kaung day (カウンデー)」がオープンした。地域の人々の交流の場を創ろうという思いでできたお店のカウン

ター席では、店員も加わりながら、隣り合った人同士が交流しているシーンがよく見られる。カフェだけでなく、チラシやパンフレット、写真の撮影、動画制作などのクリエイティブ案件をサポートする事務所の機能も兼ねる。

**■ お店にかけた思い**

「Kaung day (カウンデー)」は、ミャンマー語で「良き日」を意味する。店主の桂川融己さんは、2014年から約6年間ミャンマーで暮らしていた。世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大のあおりを受けて2020年4月、やむなく日本に一時帰国した。しばらくはリモートでミャンマーの仕事をしていましたが、2021年2月にミャンマーでクーデターが発生したこともあり、ミャンマーに戻ることを断念し、実家がある萩原でお店をはじめた。

今なお厳しい状況に置かれるミャンマーの人々のための支援活動を続ける中で、少しでもミャンマーで



暮らす人々の役に立ちたいと、お店で提供するドリンクの原材料はミャンマー産にこだわる。ミャンマーからスペシャルティコーヒーの生豆

を仕入れ、萩原在住のロースター TAIYO COFFEE ROASTERS に焙煎を依頼している。また店内のスイーツは、お取り寄せスイーツで人気の地元の名店 サロン・ド・ガトー タカバヤシに製造をお願いしている。グローバル (ミャンマー) とローカル (地元) の組み合わせにもこだわりがある。

**■ 今後の展開**

カフェには様々なスタイルがあるが、人が交流し情報が行き交う、いわばハブ機能を担う場所であり「カフェという場の持つ力」が確かに存在しているように思う。お客様と話していると、どのお客様も独特な経験をされており、近場にも面白い人が溢れていると感じる。お客様同士がゆるく繋がれる機会を創るといった取り組みを行なっていこうと考えており、これまでも地元の南飛騨コーンを使ったとうもろこしプリン提供や、1時間圏内にあるパン屋さんとのコラボ企画などにも取り組んできた。今後の取り組みとして、映画上映会やトークイベント、古着や古書の販売、ローカルメディア発行など、アイデアは広がり続ける。小さな交流やそのきっかけを生み出すことで、地域で暮らす人々の「良き日」に貢献できればとお客様との交流の中からヒントを探し続けている。

(萩原町商工会)

**Kaung day (カウンデー)**

下呂市萩原町萩原1282-3

☎ 水曜日・日曜日

Google MAP▶





商工会ビジネス  
プラスカード

キャッシュバックで  
経費削減!

年会費無料※!  
(一般カードのみ)

※1年間30万円以上のご利用で次年度年会費無料

おトクな  
入会特典も!



世界にひとつ。あなたにひとつ。



お客様の喜びを喜びに



商工会ビジネスプラスカードの  
詳細・入会はこちらから



